緑友会コミュニケーション誌

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

1996年2月発行

No.89

青森県青森市平新田森越17-1
発行人　長尾　良宣　青森県印刷青年経営者会議
編集人　茨城印刷緑友会

阿蘇幻影

全国印刷緑友会

第38回
全国印刷緑友会
熊本大会開催される

と　き　8月4日㈮・5日㈯
ところ　阿蘇プリンスホテル

日本中をすっぽりと夏が包んでしまった8月の初旬に、我々、緑友の仲間は九州は熊本阿蘇高原に集合、第38回大会を開催した。真夏の空にもかかわらず高原の涼しい風が芝生の上を吹きぬけるゴルフ場をながめながらの大会となった。全国からの参加は37グループ、337名を数え会場のあちらこちらに歴代会長の顔が見え、始まる前から何か温かい空気が感じられた。

式典は地元熊本の下田充郎君の開会宣言で始まり、国歌斉唱、綱領唱和、物故会員黙悼、来賓紹介、参加グループ紹介、報道関係紹介と続き実行委員長の熊本県印刷緑友会、大鶴紀元君の挨拶となった。挨拶の中で、「原紙の値上げや価格破壊等の厳しい環境の中、あまり明るい先が見えない状況に加え、マルチメディア等が印刷に及ぼす影響も未知の状態という不安をかかえている。色々な意見を交換し合って頂きたい。又、多数ご参加頂いた、OBの方々とも色々な形で交流を深めて緑友の原点を見い出してもらいたい。「ちょっと勉強・文化を嗅ぎ・遊んで・また遊んで…」と訴えた。

続いて挨拶に立った長尾全国会長からも「大会の意義の一つは“ふれあい、語り合い”です。会員自らが主役となって熱き交流を通じて、楽しく、お互いに刺激し合いながら“友

情”を深めていただきたい。」と訴えた。

その後は来賓の方々に祝辞を頂き最後はやはり地元熊本の池田和隆君の閉会の辞で式典を終了した。

休憩後の記念講演はプロゴルファーの坂田信弘氏によっておこなわれた。氏の軽快なしゃべり口で、勝負の世界のきびしさ、かけひき、欧米諸国と日本の差、そして年齢別によるゴルフ上達法が語られるとゴルフをやらない人まで、引き込まれる世界が作られていた。時として笑わせ、又真剣に話に引き込む話術は氏の作家としての部分が大きく作用している様である。

懇親会は、中村守利君、竹田光宏君、古賀健一君、竹田一博君、城戸憲次君、利根川政明君と歴代会長がずらりとそろった豪華メンバーの乾杯の音頭で始まった。いつも以上に和気あいあいの懇親会になったのは大鶴実行委員長を中心とした地元熊本のメンバーの努力のたまものであった様な気がした。チャーリー永谷＆キャノンボールのカントリーミュージックを聞きながら夜はふけていったのです。

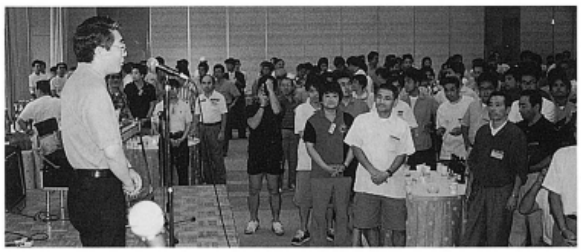
熊　本　大　会

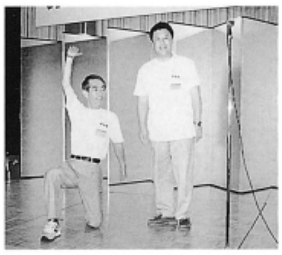
沖縄印刷若潮会
喜久里　均

沖縄から今回の参加11名、前日に市内に入りアートプロセス様のご厚意で会社見学をさせていただいた親切な持てなしに大感謝です。先駆的にデジタル化をはかって来られた同社は古い設備も多く持たれているがそれらをインターフェイスをうまく使い最新の設備と融合させておられる様子に当方のメンバーは感心すると同時に改めて印刷業の金のかかる業態に溜め息。

翌日バスにて会場へ、緑で四方を囲まれた自然いっぱいのホテルにほっと気が休まる。久しぶりの屈託の無い笑顔を見るのはいつでも文句なしに楽しい。

式典、講演、アトラクション、記念撮影と過ごし懇親会、当方来年九州山口の大会と20周年の行事を同時に企画しており多数のお出でをと、会場で呼び掛けをし沖縄であいましょうとＰＲ。会場のロケーション、演出、進行と熊本のメンバーのもてなしに感謝感激でした。翌日は一同観光オプションで阿蘇の大自然をたっぷり楽しみ市内で一泊、日曜に帰りました。





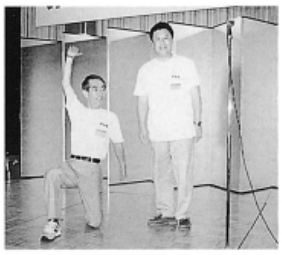
熊　本　大　会

沖縄印刷若潮会
喜久里　均

沖縄から今回の参加11名、前日に市内に入りアートプロセス様のご厚意で会社見学をさせていただいた親切な持てなしに大感謝です。先駆的にデジタル化をはかって来られた同社は古い設備も多く持たれているがそれらをインターフェイスをうまく使い最新の設備と融合させておられる様子に当方のメンバーは感心すると同時に改めて印刷業の金のかかる業態に溜め息。

翌日バスにて会場へ、緑で四方を囲まれた自然いっぱいのホテルにほっと気が休まる。久しぶりの屈託の無い笑顔を見るのはいつでも文句なしに楽しい。

式典、講演、アトラクション、記念撮影と過ごし懇親会、当方来年九州山口の大会と20周年の行事を同時に企画しており多数のお出でをと、会場で呼び掛けをし沖縄であいましょうとＰＲ。会場のロケーション、演出、進行と熊本のメンバーのもてなしに感謝感激でした。翌日は一同観光オプションで阿蘇の大自然をたっぷり楽しみ市内で一泊、日曜に帰りました。



各地行事報告

○おかげさまで30年（30周年記念式典）

主催：福岡印刷若葉会
日時：平成７年７月22日
会場：タカクラホテル福岡
式典の後、上映された映画、「ガイアシンフォニー」　地球の声がきこえてきました。

○第30回トップ印刷人セミナー

主催：大阪青年印刷人クラブ
日時：平成７年９月２日
会場：大阪コクサイホテル

講演は二講開かれ、一枝修平氏（プロ野球解説者）の「勝つためには・・・」と、近藤勝重氏（ジャーナリスト）の「自分の言葉を持つということ」が行われた。

一枝氏は、地元球団の阪神タイガースの低迷に触れ、「球団創立六十周年の年に代々行の監督が指揮を執っている中日と最下位争いをしているようではいけない」と述べるとともに、「最近の若い選手はすぐに“プレッシャーが掛った”というが、プレッシャーの掛らない勝負などないことを考えてほしい」と訴えた。

一方、第二講で演壇に立った近藤氏は、サンデー毎日の編集長の視点から見た経済情勢をはじめ、オウム事件や政治問題にまつわるさまざまな話を紹介。

一刻も早い景気回復が期待されている現在の経済情勢だけに、多くの参加者は同氏の講演に高い関心を示し、終始真剣な表情で耳を傾けていた。

○第37回東北青年印刷人連絡協議会山形大会

主管：山形印刷研修会
日時：平成７年９月２・３日
会場：オーヌマホテル
記念講演の模様は情報ネットワーク推進委員の頁でご報告します。

○仙台刷親会　40周年記念式典

主催：仙台刷親会
日時：平成７年10月21日
会場：パレスへいあん
「非役人的役人の繰り言」と題した加藤周二国土庁長官官房参事官の講演は仙台への愛情であふれ、式典懇親会でも刷親会の意気を感じさせた。

○第13回九州・山口青年印刷人大分大会

主管：大分印刷若梅会
日時：平成７年10月21日
会場：大分市コンパルホール
みがこう知性　たかめよう感性　ひろげよう友情をスローガンに全員参加型の「組織を活性化させる研修」を伊藤哲朗講師の指導で小グループに分かれるなどしておこなわれた。

平成７年度
第１回　常任幹事会

平成７年７月８日（土）
小森コーポレーション

1. 会長挨拶

2. 長崎総会（山口氏）

収支報告（別紙）とお礼があった。

3. 熊本大会直前状況（大鶴氏）

登録状況　250名（会員ベース）

不参加グループ対策　11グループ程度（各ブロック担当の常任で分担）

各グループより物故会員を連絡して下さい。

・当日の服装について―ラフな格好で来て下さい。式典もネクタイ不要
・会場へ来られる交通手段を連絡して下さい。送迎の都合があるので
・各地の地酒はホテル宛送って下さい。
・当日の常任幹事集合時間ＡＭ10：30式典会場前ロビー（11：00よりリハーサル）
・翌日のグループ長会議はＡＭ６：00からとする。
・綱領唱和担当　依田氏（やまなし）

4. 金沢セミナー準備状況

別紙中間報告により検討。登録料原案通りで決定。

内容について　講演とクイズの２本建となっているが、異種の組み合わせの感もある。

金沢のメンバー、本日欠席なので、熊本大会までに会長と金沢のグループと連絡をとって細部を詰める事になった。

5. 山形総会準備概要（若月氏）

小森コーポレーション山形工場の見学も可能となった。但し、前日（金）となる。

その他変更はありません。現在150名で仮予約している。会場は市街地にある温泉です。

グループ長会議、グループディスカッションを当日に組み込める様、細部を検討していただく事になった。

6. 40周年大会の準備と企画（案）について

1）実行委員会は、'96年８月よりとする。(それ迄は準備委員会)
委員は各グループ長で構成したい。
2）30周年時は会場などのハード面にやや偏りがあったとの反省もあり、分科会・ディスカッションなど中味を掘り下げた大会を考えている。
3）日程時には、ＩＧＡＳとのセッティング案もある。
4）規模―参考　30周年では800名であった。
5）記念誌の件　40周年で作成するかどうか別として20周年誌からの記録を残しておく必要があるのではないか(今回は未検討)

7. 今後の行事計画

1）８年度大会（山梨　第39回―依田氏）
日程（仮）　平成８年10月19日（土）・20日（日）
内容　マルチメディア等を使っての内容で考慮中
会場（予定）　甲府市湯村温泉
2）８年度セミナー（大阪　第30回―井下氏）
予定通り大阪開催となりました。詳細は未定。
3）９年度総会（未定　第40回）
候補地として、徳島、新潟、京都、佐賀の名前が挙げられましたが、決定はしていません。
4）９年度セミナー（第31回）
札幌開催を承認されました。
5）10年度総会（未定　第41回）
９年度総会地の内より、検討することになりました。

8. その他

1）会計担当より　会費入金状況　15グループ入金済、
未納入の会は８月中旬頃までに入金を願います。
2）広報担当より　情報ネットワーク推進委員の紹介記事を考えている。
日程調整があるので、委員と直接交渉された場合でも、広報にもご一報願えれば有難い。
講師料の件は統一出来ていないが友情を失しない程度には考えて貰いたい。
3）名簿担当より（棚橋氏欠席のためメッセージによる）
データ変更料の件につき、質問があり、予算内で納まるかどうか確認をとることになりました。
4）次回常任幹事会　11月11日（土）　山形にて

平成７年度
第２回　グループ長・常任幹事会議

平成７年８月５日
阿蘇プリンスホテル

1. 会長挨拶

2. 長崎総会報告（山口氏）

収支報告（別紙）があった。

3. 熊本大会（大鶴氏）

37グループ、377名の参加へのお礼があった。

4. 金沢セミナー準備状況

期日　平成８年２月17日（土）
金沢市民芸術ホール内フォルテ金沢にて。
宿泊はホテル日航金沢・全日空ホテル。
内容　①講演　チャールズ・シロー・イノウエ氏
（仮称　日米出版事情）
②縁友ゼミナール　参加型の勉強会を予定
９月中に最終案内を送りたいと思っています。

Q.（今大会では歴代会長をはじめ、ＯＢの参加が多数であったが）今後、セミナー大会時にＯＢへの呼びかけについての基本の考えは如何。

A.①各グループよりＯＢ名簿を提出願って、事務局よりの案内を考えていきたい。

②セミナー時の宿泊の件について、開催地枠の拡大・参加グループの利便も併せて宿泊のあっせんも担当グループにお願いをする。

会計より　金沢セミナーの予算、次回常任幹事会迄に提出を願います。

5. 山形総会準備概要（坂部氏）

概略変更はナシ。平成８年５月25日（土）天童ホテルにて。
現在は東青連に向けて全力傾注中です。

6. 40周年東京大会の準備と企画（案）について（芝崎氏）

詳細は未なるも、８月28日在京グループ長で会議を予定している。
金沢セミナーの時までに案内を出したいと思っています。

7. 今後の行事計画

・８年度大会　〈山梨・依田氏〉　平成８年10月19日
甲府湯村温泉　常磐ホテルにて。

・８年度セミナー　〈大阪・井下氏〉　次回までに内容を提示願うことになった。

・９年度総会　〈未定〉　各グループ内で検討を願う。

・９年度セミナー　〈未定〉　札幌より立候補の意志表示あり。決定は今後となるがノミネートとする。

8. その他

・名簿（棚橋氏）　各グループからの変更状況が28グループしか戻ってきていません。
未返送グループは早期返送を願います。
出来れば、やまなし大会でCD-ROM化して渡したいと思っています。

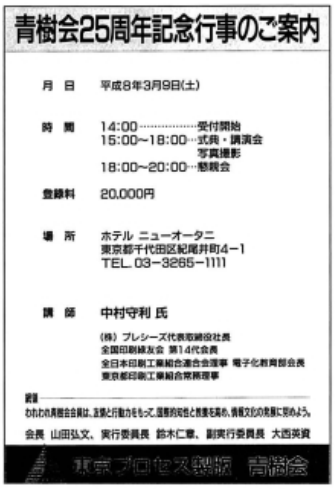
・会計（西岡氏）　入金状況が良いです。未入金は８グループのみ。

・広報（小倉氏）　①情報ネットワーク推進委員の活動状況、活発は良いが、日程調整も考慮願って連絡を願います。
②推進委員のパンフ作成、進行していきたい。

・周年行事
仙台刷親会40周年
東北青年印刷人連絡協議会（山形）
大阪トップ印刷人セミナー
九州・山口青年印刷人大会（大分）

○青樹会25周年記念式典

開催日：平成８年３月９日（土）
会　場：ホテル　ニューオータニ
登録料：15,000円


青樹会25周年記念行事のご案内

月　日　平成8年3月9日(土)

時　間　14:00……受付開始
15:00〜18:00…式典・講演会
写真撮影
18:00〜20:00…懇親会

登録料　20,000円

場　所　ホテル ニューオータニ
東京都千代田区紀尾井町4−1
TEL.03−3265−1111

講　師　中村守利 氏
(株) プレシーズ代表取締役社長
全国印刷緑友会 第14代会長
全日本印刷工業組合連合会理事 電子化教育部会長
東京都印刷工業組合常務理事

趣意
われわれ青樹会会員は、主張と行動力をもって、国際的視野と教養を高め、情報文化の発展に努めよう。

会長 山田弘文、実行委員長 鈴木仁章、副実行委員長 大西英資

東京プロセス製版 青樹会

○第39回全国印刷緑友会
山形総会

開催日：平成８年５月25日（土）
会　場：天童ホテル
登録料：23,000円
主　管：山形印刷研修会

情報ネットワーク推進委員活動状況

情報ネットワーク推進委員の活動が活発になってきました。
新しい委員も２人増え７人の方々が全国各地で講演しています。
今回はその中で３人の委員の活動をレポートしました。

'95東青連山形大会

「印刷ハルマゲドン」

講　師　**岡田　吉生氏**

私は、ＤＴＰとかプリプレスとか、作曲とか、かなりコンピュータも使っておりますし、それから、今日もデジタルカメラで皆さんのお顔を撮りまくって、持ち歩いている私のパソコンの名簿の中に写真を取り込んだりしています。でも、理数系の人間ではないのです。メカ音痴で、数字には弱いわけです。ハイテクな印刷会社を経営しているわけではないし、そういったコンピュータの知識もほとんどないので、質問されたりしてもわからないんです。ただ、自分のやってきたこと考えていることがちゃんとお話できたらいいなと思っております。こういうセミナーや会社見学で、成功事例を求めて参加するという形は何年も前に終わっています。自分と同じ業種、同じ業界でちょっと進んだちょっと大きい会社を見て、そのやり方を真似すればうまくいくということは、ずっと考えられていたみたいですけど、それはほとんどうまくいかないです。私の会社はコンピュータだらけです。「岡田さん、コンピュータ詳しいですね」「いや、私は全然詳しくないです」「謙遜されているんでしょう」。私は電話の中身、ここにコイルがどのくらい回っていてとか、どんな構造になっているかと全然知らなくて使っています。特にコンピュータの場合は、構造や理屈を知らないから使えないなと思っている人はいるかもしれませんけれども、それはまず最初に私は使わない、

私は使いたくないという前提があるからそういう論理に入るわけです。コンピュータの構造がわからんと言って使わないというのは、それは完全な言いわけであります。　コンピュータでハードウェアというのは機械、例えばディスプレーであったりコンピュータ本体であったり。ソフトウェアというのはそれを動かすプログラムであったり、アプリケーション、書類の類もソフトウェアと言ってもいいでしょう。もう１つ、このごろユーズウェアという言葉も出ています。どういうことかと言いますと使い道ということです。車の運転免許を取るときに「構造」、「実地」、そして現実に車で「何をやるか」ということがあります。この３つが大事なんです。今までは構造に強い人がコンピュータに強いと思われていて、本当は運転もできなかったかもしれないんです。そういう人が偉そうにコンピュータのことを言っているものだから、我々はすごいなと思っちゃったわけです。それでは、ここで音楽を聴いてください。名古屋而立会の歌で『ここに集えば』です

〔音　楽〕

この曲はキングコーポレーションの棚橋君と私の二人で作りました。これは歌以外は全部コンピュータでつくっているわけです。ＤＴＭと言ってますけれども10年ぐらい前から音楽界ではデスクトップミュージックという形で、作曲やオーケストラみたいなものをコンピュータ上でつくっているわけです。音楽業界では今までは作曲者が譜面を起こしてアレンジャーに渡して、アレンジャーがアレンジ譜を書いて、オーケストラなどを集めて録音をして、歌をのっけてレコードを作ったわけです。それは今の印刷業界に似ているわけです。印刷業界はお客さんの原稿を写植か何かで文字を写し、それをカメラで写し、版に写し、印刷で紙に写す。それを最初に一発だけ写すと後は全部使えるじゃないかと考えたのがデジタルなんです。それは10年前から音楽業界で起きていることでして、印刷業界でもそれが起きるかとか、起きてほしいとかほしくないという類ではなくて、起きるに決まっているということです。うちでＣＤを作ったんです。音楽ＣＤです。近所の製薬会社の社員で30歳の人が自分で作詞作曲をして録音をして、ジャケットも本人がデジタルで作られたんです。マックでデータ持ち込みです。ＣＤのほうはＤＡＴにデジタル録音したものを持ち込んで、ＣＤにプレスしたわけです。これは自費出版で300枚作りました。プレスして、ジャケットを入れ込んでキャラメル包装をして18万円でできるわけです。中の

印刷物データは持ち込みなので、その印刷にかかった費用は20数万円です。ということは、ＣＤの中身が18万円で、外身のジャケットの印刷の部分が20数万円です。これを聞くと、何でも悲観的に考える経営者は、「大変だ、印刷がなくなる」。印刷にとって悪い情報だ、ＣＤのほうが安い、だからこれからはＣＤにいこうとＣＤのプレス屋さんを始めたりするわけです。反対ですよね。量産化できるところに目を向けてやると「成功事例さがし」です。そこには競争があります。。ジャケットのないＣＤは本物っぽくない。手書きやコピーじゃ素人みたいだ、ジャケットはほしいということになるわけでしょう。印刷物を受注したらＣＤを生産できるようになるのでなくて、印刷物を刷るためにＣＤを受注するわけです。この例はうちの会社がＣＤという音楽業界の仕事をやっているわけです。ボーダレスというのは業際がなくなるということなんですけれども、ほかの業界から違う業界の仕事をする。そこには、従来の制作方法ではない方法が出現してますので、それは簡単にほかの業界からやられてしまうということなんです。ただでさえデザイナーは夜中までやっているのに文字まで拾う、画像までやると、えらいことになってしまう。そこで新しい分業が生まれてくるわけです。そこのデザイナーさんのコンピュータが外に向けて開放されていれば、そこにコピーライターが文章を書き込むといった分業になってきます。シームレスが横に対してオープンになっているという環境が出てきます一つの事業として展開していくときに、大きな会社の社長さんがこれからはマルチメディア事業だと言ってるのに、ご自分がパソコンも触らないというのでは売れませんね。マルチメディアの時代はインフラと言って通信の構造とか伝達の構造のみならず産業基盤がまるで変わる動きなのです。マルチメディア事業をやろうと思っている社長さん、あなたもマーケットの一員なんですよということです。秘書に任せず、社長さん自体が使わなければいけないのです。通信などご自分が使うということです。名古屋商立会はパソコン通信を立ちあげていまして、それのログといって、パソコン通信に入っている主なものをプリントアウトして持ってきました。どういうことが伝達されているかというと、『９月例会のご案内、９月18日６時より大塚商会セミナールームでマルチメディアパート２／通信セミナーをやります。参加ください』とかいうのが入っているわけです。返事として『面白そうだ、ためになりそうだ、寝てしまいそうだ、例え槍が降ろうとも参加したいと思っています』などと。例会に集まった人のみならず、勝手にアクセスして自由に見られるというオープン化の動きがそこで出ているわけです。人に優しいマルチメディア、人に優しいというのは、「優しい」と「易しい」の両方です。マルチメディアというと、コンピュータよりさらに難しいのではなくて人間に近いわけです。うちの経理にある会社から100万円振り込まれるべきなのに1,000万円振り込まれました。今はキーボードで振り込みをやりますので、一桁間違えたわけです。うちの経理、「専務、100万円のところ1,000万円振り込まれてます。どうしましょう。」「黙ってろ」「そういわけにいかないです」「じゃ、３日間君にあずける」と言ったんですけれども、そうもいかず返しました。コンピュータのキーボードは一桁余分にポンと押してしまうことがあるんです。だからと言ってコンピュータが危ないと言いたいのではなくて、コンピュータが過渡期なんです。テクノロジーが過渡期なんです。マルチメディアとは、文字と音と映像とが双方向で、デジタルで、と言われています。テレビも立派なマルチメディアなんです。現状ではマルチメディア度が高いのはテレビであったりＣＤ－ＲＯＭであったり、双方向のパソコン通信であったりするわけです。マルチメディア度の高いもののほうが人間的と言えます。手紙より電話のほうが音が伝わる、相手の雰囲気が伝わる。どんどん人間の五感に近くなっていって、人間に近くなったものがマルチメディアなんです。そういった方向に向かっているわけです。では、経理の話とどこでつながるんだろうかというと、1,000万円と100万円の違いは、目の前に「はい100万円」と言って1,000万円渡したらわかりますよね。現金を渡すというのは一番原始的な形ですが分かりやすいです。私の名簿には昔と違ってコンピュータで写真が入るようになったということです。おまけに声まで出ればよくわかるじゃないですか。そういうのがマルチメディアの方向だということです。このマルチメディアの流れは止められない流れだと思います。少し前騒がれたニューメディアというのは、やれなくても元に戻る、着地するところはあったのです。今は飛び上がったら、着地するところがなくなっています。もとの写植に戻ろうとしても、製版をやろうとしても、もうないです。

今まではハードウェアに100万円かけたら、ソフトウェアに10万円、ユーズウェアに１万円ぐらいでした。今はハードウェアに100万円かけたらソフトやも100万円、この研究開発みたいなものに100万円かけなければ動かないんです。３つの山の高さを意識的にでも同じにしてください。

オープン化ということはステレオのコンポーネントのごとく、異なった各メーカーの製品つなげても音のでるという環境のことなんです。今までは、一つのメーカーでラインができていたからよかったのですが、今は勝手にユーザーさんがつなげてる状態なので、それに対しての何かトラブルが起きたときに、どこも面倒は見てくれません。勝手にクォーク、フォトショップ、イラストレーターを使って、印刷会社がパソコンを印刷用に使ってるという解釈なんです。自分で自社で研究するしかないのです。ハードウェア、ソフトウェアの値段が下がったら、差がつくのは勉強です。

マックを入れたけど動かないという声を聞きます。昔、活版からオフセットに変わるときに親父連中はものすごい努力や苦労をしたわけです。今、マックとかデジタル化は

うちの専務に任せているから大丈夫だとか、勉強しているようだから大丈夫だという親父さんがいますけれども、活版からオフセットに変わったときのしんどさ、それぐらいの覚悟は必要ですよということです。親父さんが今さらそんな苦労をするのが嫌だったら、息子さんがするんです。クリアする努力は同じぐらいです。しかし、クリアする山の高さというのはオフセットに変わったときより何百倍も高いことを同じ努力でできるということです。これがコンピュータは簡単であり難しいという両面がある所以なのです。今は聞く相手がいたり情報を提供してくれる人がいたり、いわゆる情報化社会ということで、情報が手に入るものですから、高いハードルもクリアできるのです。オープン化ということは自分で勉強しなければならないということです。自習しろ、これからは研究開発型、研究体質型の会社が残るということです。勉強すればした分だけ差が出ます。自分で切り開くということがポイントです。前工程のプリプレスの人たちがデジタル化を始めていますけれども、作り手側に立つことは大事なことです。メディアの数はものすごく増えていきます。いろいろな種類のメディアが出現してきますので、デジタル化することが前提で、そこにはさまざまなビジネスとさまざまな力仕事が出てきます。下手でもいいから作り手に回ることです。作り手に回っていれば空洞化はないです。印刷機を回す場合は空洞化は起きます。例えばＣＤ－ＲＯＭに焦点を当てるならば、ＣＤ－ＲＯＭが印刷業にとって敵か味方かという論議があります。「刷る」立場の会社にとってみればマーケットが減るから敵かも知れません。作り手であるときはＣＤ－ＲＯＭを作ればいいですから従来よりマーケットが増え、味方ということになります。ＣＤひとつをとっても敵か味方かが別れます。業界という枠ではくくれない時代となりました。そういう流れが本当に起きるんだろうかということですが、右にいったり左にいったりしながらトータルでいけば世の中は良い流れに向かっているわけです。こういうデジタルカメラもフィルムがないです。ＤＴＰでやれば、工程管理は省かれたり、フィルムの使用量はイメージセッターで出すと普通の製版でやるよりフィルムロス激減です。コストダウンの話ではないです。これからは中間生産物は作ってはいけないのです。これからのキーワードは地球のためになっているか、お客さんのためになっているかの二つです。そうではない仕事は止めていかないと短期的にはもうかるかもしれないが、マクロでみたら右往左往するだけです。通信の世界も同じで、インターネットとか、テレビショッピングでも宣伝コストを下げて特定のお客さんをねらいうちするようなマーケティングをしています。電話料金と郵便料金が変われば当然チラシの構造も変わって当たり前です。それは総て地球のため、生活者のためです。

中国に目を向けている人がいます。こんな話を車のディラーさんに話したんですが、中国をあまり刺激しては駄目だよと言ったんです。もし日本のように国民総ドライバーになって車を持ってしまったら一発で石油がなくなり、日本のように消費し始めたら一発で日本海がごみで埋まってしまいます。人類の自滅です。飢えている貧しい国があるから、そこを富める国から援助して、繁栄のレベルまで引き上げようじゃなくて、最適レベルまで全体が下がるみたいなことは考えなければならないです。その話をしたら、わかってなかったんです。例えばシンガポールとかベトナムのように、自動車生産を始めたら日本より安い車ができる。そうしたら自分のところは競争に負けるからと、そうそうしか考えられない人もいるんですね。地球のためです。

唐突ですが、ここで音楽です。

〔音　楽〕

神戸が震災にあったときに、私の友人から被災者を励ます歌の歌詞を作ったから、曲をつけてくれとファクシミリが入りまして、曲を作って現地に送ったのです。　緑友の中で被災した梶原さんの話なんですが、ほとんど全壊に近い状態で翌日に社屋の前に呆然として立っていたんだそうですけれども、途方にくれるというより、もう一度復興してやるぞというファイトがわいてきたということを言われておりました。それは経営者だから、当たり前のことだと思っています。同じように自宅も全壊で焼け出されたような人がパジャマでスリッパばきの社員さんが、「社長、もう一度力を合わせて最初からやり直ししましょうよ」と声をかけてくれたということです。それから全員の社員を同じ給料で雇うことはできないので、北陸に実家のある女の子などは、実家に一度返して、また順調にいくようになったら再度呼び寄せて、ということだったそうですが、女の子から毎日にように葉書が来て、もし復興されてもう一度雇ってくださるならば、一緒に働かせてくださいという葉書が来たというのです。会社にはずっと彼女の机を置いておくつもりですという話をされました。梶原さんが支払い猶予のお願いに訪れた会社で、「いいよ、梶原さん、いつでもいいからね」といって、支払いを無期限に近い形で猶予してくださった社長さんがいたということです。普段の梶原さんの経営姿勢が、その社長をしてそう言わしめたんでしょう。それと今の音楽テープにも関係あることかもしれませんけれども、やはり神戸が被災したり、自分たちの縁ある人がそういう状況になったときに、誰しもがそれに協力したいと思うのは当たり前のことです。その社長さんにとってみたら、支払いを猶予した、その自分の立場で一番できることをしたんです。立派な義援活動ができたわけです。このテープを作ったよといったら、胸のポケットに手を入れて、「岡田さん、それ幾ら？」というので、ただですから、自分の縁のある方にそれをお渡しして励まされればいいんじゃないですかと申し上げたら、はっという顔をするんです。そのテープの販売収入で義援金を集めてそれを送れば、それが食料や衣類になって、その被災地の人

を助けることができると思ったんですね。テープの音楽が、本人の気持ちにダイレクトに伝わるのにね。自分の立場でできる何かということを掘り下げることが大切です。これからは競争の時代ではないし、成功事例を見つけたらほかの地元の同業者が始める前に先にそれを始めて、先にもうけようとかいうのではなくて、自分の会社とか自分の会社のやり方がどれだけお客さんに、マーケットに受入れられるかということを掘り下げないと、会社は確実になくなります。うちの営業に「引っ越しの手伝いしているからといって、仕事取れているわけではないんだよ」と言ったら、「専務はそう言うけれども、やはり人間関係は大事です。私のファンになって仕事をくれている人がいます」と。売れているのは会社の商品なんです。商品がほかの会社に比べて同じだったりしたら、それは売れなくなります。私が言ったのは、確かにあなたが気に入って仕事をくれるお客さんもいる。でも、お前だから仕事やらんといって、くれない人もいるわけです。人格とか人間性とかは当然のことで、最終的には自社の「商品」が売れているということになるわけです。

商品に含まれるものは、その会社のあり方というか、社長さんの考え方というか、それも確実に商品に埋め込まれているものだと思うのです。受け入れられる会社でなければ存在できなくなってきます。そういったことのヒントとか考え方みたいなものをつかむことが、ネットワークであり、オープン化ということだと思います。緑友会は以前からオープン化に近い形だと思います。ネットワークの第一次予選は、自分と価値観が合うかということです。オフリンに興味のある方、デジタルに興味がある人と分けるのではなくて、最初の分け方は価値観が一致しているかどうかで見分けることです。その土壌をどこに求めるかというのですが、私は恵まれています、皆さんも恵まれていると思います。こういう場とかいろいろなところで地域を越えて話すことができるし、ネットワーク、パソコン通信みたいなものはそれも越えて、ほとんどタダに近い、テレパシーに近いような状態でそういったことが交換できるということです。このチャンスは、ムラから飛び出すチャンスです。会社で、嫌いな人は別に仲良くしなくてもいいよと言っています。昼飯ぐらいみんな一緒に仲良く食えよとかいう上司がいますが、昼飯ぐらい好きなやつと食いたいですね。せっかく幹事が苦労して企画したんだから社員旅行に一緒に行けよとかありますね。旅行ぐらい好きな人と行きたいですね。いろいろな人と仲良くしなければいけないのは私も認めますし、それは大事なことです。隣の人とか、上司とかと仲良くしなければならない、いわゆるねばならないというところでつかまってしまって、そこから先に進めなくて挫折してしまった人をたくさん見ています。

私の考えは、嫌いな人とは付き合わなくてもいい、世界中の好きな人をたくさん作って、どんどん付き合っていたら、気がついてみたら隣の嫌なおやじと付き合えるようになったとか、それぐらいのスタンスがいいなあと思います。お前は長男の嫁として来たんだから当たり前だろう、姑と仲良くするのは、それが人間の本来だとかいって、そこで挫折してしまった関係をたくさん見ています。好きな人をどんどん作って、気がついたら姑とも仲良くできるようになっていたとか、そういったのがいいですね。ムラから飛び出すチャンスが、こういうデジタルの通信とか、こういうネットワークの交流によって生まれるということを私はかなりマジに感じていますので。それでは、後半の曲を聞いて終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

〔音　楽〕

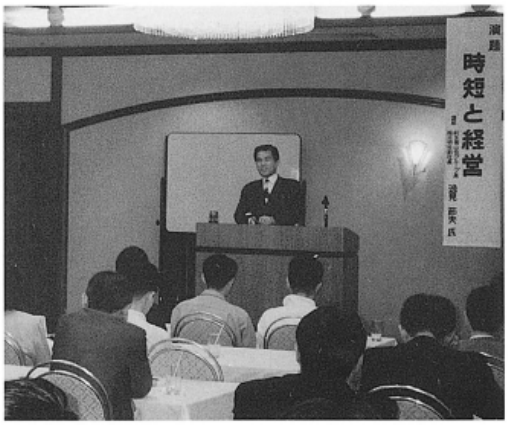
時短と経営

講師　逸見　節夫

主催　金沢青年印刷人クラブ

日時　平成７年７月８日

逸見節夫氏の金沢での講演の模様は、金沢青年印刷人クラブの方々のご協力により刻明に記録されておりましたが、オフレコの話が多く、内容につきましては、掲載をひかえさせて頂きます。ただ、逸見氏と金沢の方々の関係を表わす様に和気あいあいの中でのしっかりした講演会でした。



人の間の探究

講師　米倉　伸三

主催　茨城印刷緑友会

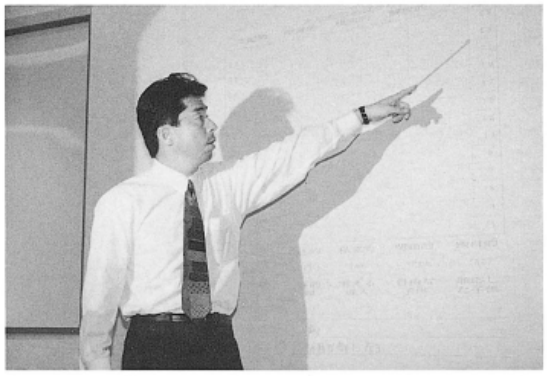
日時　平成７年11月15日

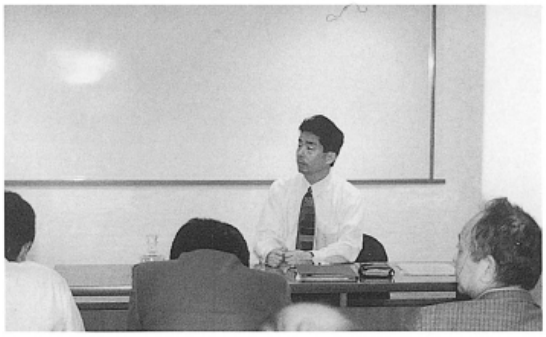
「人の間の探究」と題して行われた米倉伸三氏の講演は企業におけるＣＩ、プレジデントアイデンティティーを構築する為に手掛けられた交流分析についてが主となった。

説明の後、各自がエゴグラム　プロファイルセルフテストをしてエゴグラムを作製。各々のパターンにおける性格分析を米倉講師が説明。

各人の中にあるペアレント、アダルト、チャイルドの自我状態が解説された。

次に対話分析とストロークの説明がされた。時間の都合上、４つの分析と３つの理論の内、以上３点が講演されたが、新しい角度からの自己分析にとまどいながらも驚きと喜びを感じる講演でした。





新しい情報ネットワーク推進委員です。よろしく!!

井　上　雅　博

所属：やまなし印刷若人会
株式会社アド井上　専務取締役
e-mail adress : masahiro@mdf.co.jp
URL : http : //www.mdf.co.jp
〒409—38　山梨県中巨摩郡田富町流通団地３-４-５
ＴＥＬ／0552—73—6141　ＦＡＸ／0552—73—6144

プロフィール：1965年２月19日生まれ。1992年より株式会社アド井上にてメディアデザイン事業部部長を務める。アップルコンピューターによるアップルトレーニングキャラバンの講師、Page'95のアドビ社ブース、IGAS'95のアップル社のブースなど、様々な場所でセミナーの講師を務める。また山梨県内では、メディアデザインセミナーを自ら主催。

講演の得意分野：●ＤＴＰ導入の実際　—コンピュータ経験者はいなくても大丈夫—
●インターネット　—コンピュータ一人に一台の時代—

間　　直　樹

所属：福岡印刷若葉会
会社：秀巧社印刷株式会社

簡単な経歴：昭和25年　福岡市生まれ
昭和49年　國學院大学卒業
昭和52年　秀巧社印刷株式会社入社
平成３年　代表取締役社長就任

講演の得意分野：ありません。
私が現在学び実践する経営の考え方（理念）や、簡単な自社紹介ならお話できるかもしれません。

情報ネットワーク推進委員活動状況

平成７年11月現在

日　付	開　催　会　名	講師名（敬称略）	演　　題
6／17	やまなし印刷若人会	岡　田　吉　生	ＤＴＰの現状とデジタルカメラの正しい使い方
7／8	金沢青年印刷人クラブ	逸　見　節　夫	時短と経営
8／19	やまなし印刷若人会	佐　藤　達　也	デジタルはFullcolorＤＴＰ．Ｅプリンティング・オンデマンドプリンティング・タイムスケジュール管理
9／2	山形印刷研修会（東青連大会）	岡　田　吉　生	印刷ハルマゲドン
9／22	やまなし印刷若人会	白　井　慶　吾	日本人とマルチメディア
10／6	茨城印刷緑友会	米　倉　伸　三	人の間の探求
11／10	札幌青年印刷人の会	岡　田　吉　生	

リレーエッセイ　長尾会長の方針「友情と研鑽」　研鑽は情報ネットワーク推進委員が主役
友情の主役はこのリレーエッセイがつとめます。

F of Gネットワーク

郡山凸凹倶楽部　**坂　本　敬　亮**

「ねね、お父さんここどうすんの？」と小学６年の息子が聞く。今月の“お小遣い宿題”のレポートをプリントアウトする方法が解らないらしい。今月のテーマは「雷鳥は、何故『雷鳥』と呼ばれるか」である。それを調べて、Macを使ってEGwordでレポートを作らなければ、彼は今月のお小遣いがもらえないのである。　我が家では、子供たちに小遣いをやるのは父親の威厳を保つ最後の砦である。でもただやるのでは面白くない。“自由と義務”を身をもって教育せねばという高邁な考えの基に始めたつもりではあるが、妻に言わせると、「我が子で遊んでいる。」そうである。確かにその感はなくもないが、疑問を自らの力（学校の図書室の先生の時もあるみたい）で解き明かし、ある形をもって人に伝えるということは、絶対彼のためになると信じて疑わない。そこで、「ほら見ろ、前の教科書だしてローマ字勉強してるぞ。」と言うと、「あ、それ、SIMCITYとっとくのにやってたみたいよ。」「なに、英語の塾に行きたいって？」ちょっとはやる気になってくれたかと思うと「友達がいくからみたいよ。先生が外人さんだし、」　本当は、折角印刷屋の息子に生まれたのだから、ワープロぐらい打てて、もっとコンピュータをコンピュータらしく使ってほしいと思っているのである。しかし、彼らの話題と言えば、ファミコンのゲームの話しばかりである。すでにある世界の中で、攻略法がどうだの、武器がこうだの、技がああだの、でうんざりである。でもそう言えば、何年か前、最初にファミコンを買うときは、「ゲームばっかりやってて、知らない子まで家に来て、ちゃっかりやってくみたいよ。」と妻に反対されたものの、「いや、これからはコンピュータの時代だ。彼らは『操作世代』なのだから、身近なコンピュータとして最適だ。」と言ってしまっている。確かに、今、彼らは『操作世代』になっている。コントローラーが彼らの手足の如く動く。ジョイスティックやネジコンすらもいらない。だから、残念ながらほとんどのゲームで彼らに負ける。勝てるのは二角取りとまきがめぐらいである。思い起こせば、20年近く前、私が大学入りたての頃、寮の先輩が大枚をはたいてPET（初期型のkeyboardが四角いやつ）を買った。遊びに行ってみると、STAR TREKゲームを徹夜でやっていた。それは、“３つの数字が並んだの宇宙”でクリンゴンを探して戦うという、潜水艦ゲームのコンピュータ版のようなものであったと思う。自分がカーク船長になり、コンピュータに命令するのである。カルチャーショックであった。それから、チェック無しのスルーホールのボード（チェック有りだと高価）と6800でワンボードマイコンを作ったり、ASCIIに首っ引きでPC8001にゲームを打ち込んだりしていた。「またパソコン買って…、前のはどうすんのよ」と言われながらも、趣味と実益を兼ねておもちゃにしてきた。最近では、「すごいだろ、Quick　Timeで360°見れんだぜ」「今度のは、声に応えてうごくんだよ。」とやっていることを思うと、子供とたいして違わないようである。ふと思うと、何の先入観もなく妙な固定観念もないことがコンピュータを道具として受け入れられるのだと教えられる。改めて、今こそ水平思考をと、自分に言い聞かせている、ビル・ゲイツや西　和彦と同年齢の私です。

次号の担当は
小野　健介さん（大分印刷若梅会）
㈱いづみ印刷社　常務取締役
臼杵市大字臼杵字洲崎72-91
TEL　0972-63-4317
FAX　0972-63-6133